

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

## INDEX

1. コラム「論点提起」：「個」の自覚・自律や如何
2. キュレーション：イノベーション × 地方創生
3. 都市を探る：スマートシティ-欧州における事例-  
(Japa 理事 青山学院大学元客員教授 小畑きいち)
4. 解説：読みやすい「ユニバーサルデザイン(UD)フォント」
5. 読者の声
6. Blog 仕組みの群像：梅雨の合間に観る山陰のまちづくり・まち興し
7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月のpickup 情報
8. 連携団体及び Japa からのご案内
9. つばやき（編集後記に代えて）

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人（芝原 靖典）による。

※ 本 Newsletter は、Japa 日本専門家活動協会が毎月1日に発行する会員及び関係者向けの newsletter です。3ヶ月後に当協会のHP <https://www.japa.fellowlink.jp/blank-14> にて公開。

### Japa 会員・連携団体 募集中！

Japa は、より多くの方々が会員として習合・連携・共創できることをめざして  
正会員(入会金1万円、年会費1万円)、一般会員(年会費3千円) 及び 連携団体  
を随時募集しています。お問い合わせ・入会をお待ちしています。

## 1. コラム「論点提起」：「個」の自覚・自律や如何

最近、主催しているとあるフォーラムの参加申込状況（ネットによる事前登録）をみていて、家族で参加申込する場合に、一人ひとりの氏名、e-mail アドレスではなく、代表者一人の氏名で家族分（複数）を申し込んでいる事例に遭遇した。念のために、ダブリ登録ではないかと確認すると、「家族分」と云う。「個」がベースのネット社会においても、「個」としてよりも、「家族」という単位にとらわれている事実にはショックを受けた。そこには、「個」がみられない。

そういえば、「こども庁」も、発足間際になって、急遽、「こども家庭庁」に名称変更され、発足（令和 5 年 4 月 1 日）した。なぜ、「家庭」が加わったのか。「子育て世帯」「子育てに対する家庭の役割」云々等云われているが、こどもと親・家庭のあり方に多様性を認めているのか、本当に「こども」という「個」の尊厳、自律につながるのか、気になるところである。

参考：「子ども家庭庁」は最悪なネーミング…親の無理心中に巻き込まれる子どもが減らないワケ 「親の所有物」のままでもいいのか 窪田 順生 2022/01/06 PRESIDENT Online <https://tinyurl.com/2nognn3q>

マイナンバーも「個」（本人）ではない「家族」名義の口座が登録されているケースが 13 万件あったと報じられている。仕組み/システム上の問題とされているが、真の問題は「個」が銀行口座を持たず、「個」としての経済的自立・自律の環境にないことに起因しているのではなかろうか。

参考：マイナンバー 家族の口座なぜ登録可能？ 照合できない仕組みとは 2023 年 6 月 7 日 NHK <https://www.nhk.or.jp/shutoken/newsup/20230607a.html>

さらには、「企業等」が従業員の社会保険や所得税等の処理を行う「源泉徴収制度」（戦時下の 1940 年の税制改正で導入）や「年末調整」により、従業員＝生活者「個」は社会保険や公租公課に疎くなっている。その結果、生活者「個」よりも企業等「組織」ベースの仕組みづくりが優先され、「個」としての自覚・自律が置き去りにされやすい社会状況を招来している。

参考：「昭和 15 年の税制改正では、滞納の未然防止や納税の簡易化、納税者の捕捉などのために一部の所得税には源泉徴収制度が導入されるなど納税方法の抜本的見直しも行われました。」 源泉徴収制度の導入-昭和時代- 国税庁 <https://tinyurl.com/2nwc4t8u>

野口悠紀雄著「戦後日本経済史」、新潮選書、2008 年 1 月 <https://www.shinchosha.co.jp/book/603596/>

一方で、コロナ禍後に、山陰へのツアーに参加した際、総勢 46 名（移動で利用するバスが満席）中、16 名（男性 5 名、女性 11 人：全体に占める比率 35%）が一人旅の方であった。そして、その多くは高齢者であった。高齢になっても、一人で参加して、参加者同士で仲良くなり、旅を楽しんでいる「景色」に、超高齢・長寿社会の多様な「個」の自律の一端をみた思いがした。

補：厚生労働省の「簡易生命表（令和 3 年）」 <https://tinyurl.com/2pnt32f9> によると、2021 年の日本人の平均寿命は男性が 81.47 歳、女性が 87.57 歳で、その差は 6.1 歳となっている。

総人口減少社会においては、多様性を認め、「個」を尊重してこそ持続可能な社会となる。「家族」、「組織」のくびきから解放され、個々人が「個」としての自律をめざす仕組みづくりが必要な時代となっているが、果たして、社会としてそうした道筋づくりに動き出せるや如何。

## 2. キュレーション：イノベーション×地方創生

### [地域・社会課題]

- ▼将来人口推計が映し出す日本の課題 第70回 ESRI 政策フォーラム 内閣府経済社会総合研究所 令和5年6月23日(金) 12:15-14:00 <https://tinyurl.com/2cxgmftc>
- ▼死亡のリスク上昇と関連する社会的孤立と孤独感 Nature asia 2023年6月20日 <https://tinyurl.com/2exronuk>
- ▼欧州の報酬は日本の3~4倍、これでは日本の大学に優秀な人材は定着しない 2023.6.3 JBpress <https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/75432>
- ▼コロナ禍収束後に変革は無理、DXが速攻でChatGPTに置き換わる日本の惨状 木村岳史の極言暴論! 2023.6.1日経ビジネス <https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00322/052400089/>
- ▼イノベーションのジレンマならぬ、問題解決のジレンマ 碓 邦生(大分大学/合同会社ATDI) 2023年5月31日 COMECO <https://comemo.nikkei.com/n/n4261f20f8f23>
- ▼捨てられる裁判記録 21世紀の文明に対応していない日本 冷泉彰彦(作家・ジャーナリスト) 2023年6月10日 Wedge ONLINE <https://wedge.ismedia.jp/articles/-/30506>

### [知・技術・イノベーション]

- ▼「適応自在 AI ロボット群と共生することで実現できる、活力ある高齢化社会」ムーンショット目標3の平田泰久プロジェクトマネージャーと落合陽一さんの対談記事を公開 2023年06月23日 科学技術振興機構 [https://note-moonshot.jst.go.jp/n/n5a2319ea54b5?magazine\\_key=m184ad00d16cc](https://note-moonshot.jst.go.jp/n/n5a2319ea54b5?magazine_key=m184ad00d16cc)
- ▼アメリカを敗戦に追い込んだ「マクナマラの誤謬」とは? 2022年02月03日 Gigazine <https://gigazine.net/news/20220203-mcnamara-fallacy/>
- ▼“イノベーション循環”が新たな価値を生み、持続可能な産業を創る 2023年6月2日 経済産業省 <https://www.meti.go.jp/press/2023/06/20230602007/20230602007.html>

### [生成AI]

- ▼ChatGPTがもたらすパラダイムシフト -仕事、企業、社会はどう変わるか- 2023年6月 野村総合研究所 <https://www.nri.com/jp/knowledge/report/lst/2023/souhatsu/0606>
- ▼ChatGPTを使う前に知っておくべき「何を学習しているか」 山崎文明(情報安全保障研究所 首席研究員) 2023年6月23日 Wedge ONLINE <https://wedge.ismedia.jp/articles/-/30628>
- ▼ChatGPT ブームが追い風 生成 AI を活用・検討している企業、6割超え 2023/6/20 帝国データバンク <https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p230608.pdf>

### [地方創生・日本創生]

- ▼「恋愛・結婚に関するアンケート調査」を実施! 2023年6月21日 明治安田総合研究所 [https://www.myri.co.jp/research/report/pdf/myilw\\_report\\_2023\\_01.pdf](https://www.myri.co.jp/research/report/pdf/myilw_report_2023_01.pdf)
- ▼移住を前提としない自治体の未来 2023-06-09 PWC <https://tinyurl.com/2dt3ojrn>
- ▼第3回 グリーンインフラに「囲まれるだけ」「触れるだけ」で健康に 岩崎寛・千葉大学大学院園芸学研究院准教授が語る「0次予防」効果 2023.06.15 新・公民連携最前線 <https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/012600051/061400006/?P=1>

### 3. 都市を探る：スマートシティ —欧州における事例—

(Japa 理事 青山学院大学元客員教授 小畑きいち)

#### ■欧州における事例

環境意識が高い欧州連合（EU）、各国政府、地方自治体などが、地球環境保全をスマートシティ政策の第一とし、エネルギー効率を向上させことを進めている。単にエネルギー分野だけでなく、交通分野と IT 分野を積極的に癒合させスマート化してスマートシティを目指している。

#### ① ヘルシンキ（フィンランド）



ヘルシンキは北欧フィンランドの首都、人口は60万人超で周辺を含むと100万人規模の都市圏を構成している。MaaS（Mobility as a Service）を発案しMaaS先進地域でもある。そして、ヘルシンキは都市全体をテストベッド（実際の使用環境に近い状態での実証試験環境）により、ネットワーク経由の公共サービスなどへも拡大し、スマートシティとして進化を続けている。2020年には、スイスの

IMDなどが公表する「世界スマートシティ・ランキング」において、前年の8位から2位へとランクアップした。MaaS分野ではスタートアップ企業である「マース・グローバル」がアプリ「Whim（ウィム）」を市内に提供している。シェアカー、シェアスクーター、自動運転バスなどの稼働・運行などにも使用されている。さらに電動キックボードなどへもサービス拡大、最新の都市モビリティを推進している。

さらに、2017年に郊外のエスポー市のスタートアップによる「Sensible4」によって、北欧の厳冬期における雪、霧、路面凍結などの厳しい条件でも安全な自動運転を可能とする「全天候型自動運転技術」へと進展を図っている。

ヘルシンキは循環型インダストリー経済の確立をめざすスマートシティとして、ノキアとの5G網の普及と多機能センサーの「スマートポール」（Smart Pole）、5G通信機能、GPS、ビデオカメラ、モニター・検出センサー、サウンド機能、アラーム機能、ディスプレイ機能、EV（電気自動車）用充電スポットなどを設置し、検出情報データを利活用し、交通系、公共サービス系、環境系など都市全般にわたるスマートネットワークにより、都市の快適な生活環境をめざしている、

#### ② バルセロナ（スペイン）

スペイン・カタルーニャ州都、人口は160万人超規模で、スペインではマドリッドに次いで第二の都市で産業・観光都市でもあり、サグラダ・ファミリア寺院は世界遺産として有名なスポットである。バルセロナ市がスマートシティ化への取り組みを始めたのは、1999年に City





Council の成長戦略に掲げられてからである。

当初は、技術中心の構想としたが、新市長として就任したコウラの提唱で、市民中心のシステム構築とすべきであると基本理念の導入を決定した。都市機能と市民の動きを「生態（エコロジー）」という概念と考え、あらゆるテーマの中心理念として市民の生態と暮らしの観点からあらゆるプロジェクトにおける基底理念とするとした。

地域内での廃棄物処理、エネルギー供給など循環型経済として自給できるものはできるだけ自前で行うという発想への転換を行い、そして関連プロジェクト構想を IT 部門と都市生態部門の連携を核として全市挙げて推進することとした。2006年から2008年にかけて、「ICING」プロジェクトを立ち上げ、市内にセンサー類の設置を進め、パーキング情報、街灯、公共交通、廃棄物収集、シェアサイクルサービスなど行政サービスにおけるデータ情報の共有化を徹底化し、さらに大気、騒音、水質、気温といった生活生態環境の情報を人々に提供する。その結果、都市生態・環境情報などセンサーからネットワーク経由でデータを収集し、「センチーロ（Sentilo）」と称する情報統合システムで結び稼働させた。

さらに、2011年からは世界的規模のスマートシティ国際会議（Smart City Expo World Congress）を主催。このような積極的なバルセロナ市の活動に対して、2014年にEUは注目し、「欧州イノベーション首都」（European Capital of Innovation）に選出された。そして2015年には、このスマートシティ計画をさらに進展し、新プロジェクト「バルセロナ・デジタルシティ」（Barcelona Digital City）計画スタートさせ、技術中心から市民中心へと進化、データ独占の抑止、民主的な「City OS」の整備による「オープンデータ・ガバナンス」、Free Open-Source democracy をめざすデジディム（Decidim）と称する仕組みを形成するなど、市民参加による民主的かつ未来対応型都市として持続可能都市をめざす。

さらに、スマート化以外にも視野を広げ、快適な都市空間をめざす核として、近隣区域市民へ公共スペースを設ける「Super Block」計画によって、グリッド状の9街区をひとつのスーパーブロックとして、歩行優先地区として自動車の進入を制限し、その空間を市民に開放し、その利用方法は近隣市民に委ね、市民同士の関りを深め、近隣地区の愛着を深めることにより市民生活活動を活発化し、持続的可能都市をめざすとした。それら空間は近隣公園、児童公園、休憩ベンチ・ピクニックテーブルなどを設置、緑地など種々な用途に適用されている。成果として、自動車通行量が80%減、CO2排気ガスは32%減、そして歩行通行者が増え、近隣のカフェ、ショップへの来客は増加し近隣は賑わいを取り戻し住民同士の連携も深まり好評を得ている。

### ③ アムステルダム（オランダ）

アムステルダム市はオランダの首都、人口90万人超で都市圏人口は約250万人規模。アムステルダムのスマートシティ構想は、エネルギー問題解決として2006年にオランダを中心にエネルギー



ギー事業を展開する「Alliander」共同プロジェクト計画から始まる。そして、EU と 2008 年に「気候変動・エネルギーに関する政策パッケージ」の温室効果ガス削減目標の達成を目指して、「アムステルダム スマートシティ プログラム」を計画し、EU と合意スタートした。2009 年に低炭素化プロジェクトを開始。スマートメーターの導入による消費電力の「見える化」や、スマートグリッドの整備による電力需給の最適化、エネルギー制御が可能なスマートビルへの転換といった取り組みなどが進められた。そこから EV（電気自動車）

の普及をめざし充電スポットの設置やゴミ収集や駐車場など公共スペースにおける環境問題全般の解決へと活用を拡大した。2025 年までに CO2 排出量を 1990 年比で 40%削減するという目標を掲げている。

住民への認知度向上や意識喚起を目的に「I amsterdam」というプロモーションを展開しシビックプライド（都市に対する市民の誇り）を醸成し、さらに、都市情報をオープンデータとしてインフラや環境負荷の状況を「見える化」する取り組みなどスマート化へと発展させた。

2016 年からは「Sharing City Amsterdam」を掲げ、シェアリングエコノミーの取り組みに着手。観光宿泊、食品デリバリーなどシェアリングサービスに加え、近隣コミュニティに根差したシェアリングサービスを提供するスタートアップ企業の育成も図った。また、市内に多い水路に停泊するボートをシェアリングするというオランダ独自のサービスも含むようにした。

アムステルダムの【スマートシティの実現をめざす 4 分野の対策】について、以下に示す低炭素化を重視した市民に身近な行動目標を具体的に掲げている。

- (1) 持続可能な生活(Sustainable Living)
  - スマートメーターの導入により、消費電力の見える化、市民意識(ライフスタイル)を変革
- (2) 持続可能な労働(Sustainable Working)
  - 職場などのスマートビルディングへの転換、エネルギー消費の抑制意識の向上
- (3) 持続可能な運輸(Sustainable Transport)
  - 港湾・船舶間の電気充電ポイントの設置、EV の普及、充電ポイントの設置拡充
- (4) 持続可能な公共スペース(Sustainable Public Space (Municipality))
  - ゴミ収集 EV の活用運営、太陽光発電によるゴミ圧縮機を店舗へ導入

#### ④ コペンハーゲン(デンマーク)

コペンハーゲン市は、「コペンハーゲン 2025 気候プラン」プロジェクトでカーボンニュートラルな街をめざすと、2012 年に目標にした。「Copenhagen Connecting」プロジェクトでは、市内のセンサーや Wi-Fi を通じて収集したデータを分析・活用し、スマートシティに関連するさまざまな技術やソリューションを開発している。CITS (Copenhagen Intelligent Traffic



Solutions) プロジェクトでは、交通渋滞の改善とCO2排出量の削減、市民の安全性向上を目指している。また「DOLL (Denmark Outdoor Light Lab) の Living Lab は、オフィス街や住宅街の一角を実証実験場とし、情報ネットワークをメッシュに張り巡らせ、国内の照明関連企業の最新照明ソリューションを設置し地域の温度や汚染物質の分布について計測するセンサーを設置、当該ネットワークを通じて、屋内外でスマート機能する最先端

の照明ソリューションの開発などに取り組む。「DOLL」などが収集したビックデータは、2016年にリリースされたデータ取引市場で購入することができる。

このほか、デンマークは2050年までに「脱化石燃料社会」を実現へと高い目標を掲げている。

(注) DOLLとは(3つのラボがある)

Living Lab.: 経路、道路、通路、公園や広場など実生活の中で屋外照明製品が実体験できる。

Quality Lab.: デンマーク工科大学内にあり、メーカーやバイヤー向けに人工照明のあらゆるテストや結果報告書作成などの実証サービスを行う

Virtual Lab.: デンマーク工科大学内で、開発初期段階での光やソケットの効果や分散、反射や光量などを「見える化」するために、3Dコンピューターモデルにスペースを再現する技術など提供している。

#### 【参考・引用】

小畑きいち 都市を探る：スマートシティ ～世界における市場と欧米の政策経緯～

Japa Newsletter 2023年5月1日号

M. Hämmäläinen ” A framework for a smart city design: Digital transformation in the Helsinki smart city” 2020

小林巖生 「スマートシティ先進都市バルセロナ市の取り組み」可視化情報 2018

Tuba Bakıcı & et al. “A Smart City Initiative: the Case of Barcelona” ,J Knowl Econ 2013

鈴木剛司 アムステルダム「スマートシティ」プログラム NEDO 2009

内田浩平「欧州現地調査の報告～スマートシティ・都市開発の動向～」Urban study2020

DOLL Living Lab. “| Lighting the future of smart cities” 2023

Lundin, Andre & et al.” Smart cities: A case study in waste monitoring and management” Technical University of Denmark 2017

NRI 「ICT I C Tを活用したスマートシティの事例等に関する調査」NRI 2016



#### 4. 解説：読みやすい「ユニバーサルデザイン(UD)フォント」

色覚異常に対する配慮は知られているが、文字認識に対する配慮は意外と知られていないのでなかろうか。行政文書や企業文書に標準的に使われているフォント「MS 明朝体」や、新しいパソコンにデフォルトで設定されている「游明朝」は線が細くて、視力が良い若い人には良いかもしれないが、年をとるにつれ、読みにくくなる。PDF に変換すると、さらに読みにくくなる。

実は、本 Newsletter も、読者層を考え、使用するフォントについては悩んできた。従前より、MS 明朝体の読みづらさが気になっていたため、2020 年 4 月 1 日の創刊号は「AR 丸ゴシック体 M04」、同年 10 月 1 日号からは「BIZ UDP ゴシック」、そして 2021 年 6 月 1 日号からは「BIZ UD ゴシック」を使用して、現在に至っている。採用理由は、PDF に変換しても文字が読みやすいことと、半角の文字・記号【特に、半角( )】を利用して、文字列が乱れないためである。読みやすい最適な文字フォントを探して、「UD」の意味を知らずにたどり着いたという次第である。

この「UD フォント」は、実は「発達障害をもつ方の中には『明朝体が読めない』『ずっと明朝体で読んでいると体調が悪くなる』といった困難を抱える方々がいます。そうした特性をもつ方にも読みやすいようにと開発された」とのこと。下記に UD フォントの特徴の説明文をフォントタイプ (Font サイズはいずれも 11 ポイント) を変えて表示する。違いがよく分かる。

游明朝	BIZ UD ゴシック	BIZ UD 明朝 Medium	MS 明朝
線	太さが均一	太さが均一	太さが均一
装飾	誤認につながりやすい要素の減少	誤認につながりやすい要素の減少	誤認につながりやすい要素の減少
文字の中の隙間	見やすいよう大きめ	見やすいよう大きめ	見やすいよう大きめ
濁点・半濁点など	大きくする 極端に文字にかぶらないようにする	大きくする 極端に文字にかぶらないようにする	大きくする 極端に文字にかぶらないようにする
似た形の文字 9 と 6、p と q など	ひっくり返しても見分けられるよう、文字同士の形を変える	ひっくり返しても見分けられるよう、文字同士の形を変える	ひっくり返しても見分けられるよう、文字同士の形を変える

出典：ご存知ですか？ 発達障害でも見やすい「UD フォント」の特徴と活用例 2022/06/09 障害者としごとマガジン <https://shigoto4you.com/udfont/> の表に比較フォントタイプによる列を加筆

UD フォントの代表的なものとして、「イワタ UD フォント」「モリサワ UD フォント」「ヒラギノ UD フォント」などがあり、モリサワの「BIZ UD フォント」は、Microsoft や Google に提供され、無料で使えるようになっている。UD フォントが文字フォントの重要な選択肢の一つとして考えられる環境が提供されている。多様な人を想定すると、いつまでも「MS 明朝体」ではない。

参考：モリサワ「Windows 10 October 2018 Update」での「BIZ UD ゴシック/明朝」の正式採用を発表  
2018 年 10 月 24 日 モリサワ <https://www.morisawa.co.jp/about/news/4010>  
モリサワ「Google Fonts」へユニバーサルデザインに配慮した「BIZ UD フォント」を提供  
2022 年 03 月 30 日 モリサワ <https://www.morisawa.co.jp/about/news/6706>



## 5. 読者の声

### 【読者の声1】 ローマクラブからの新レポートを読んで (Japa 理事 丹野光明)

1972年に『The Limits to Growth 成長の限界』を発表して世界に衝撃を与えたローマクラブが50年後の2022年9月に『Earth for All 万人のための地球』を発表したので、翻訳版(丸善出版)を読んでみたが、大変示唆に富む内容となっている。

#### [参考]

- 20年後(1992年) 改訂版『Beyond the Limits 限界を超えて』
- 30年後(2004年) 改訂版『Limits to Growth 成長の限界: 30年後』
- 40年後(2012年) 『「A Global Forecast for the Next Forty Years 次の40年 2052」』
- 50年後(2022年) 『Earth for All 万人のための地球』

「小出し手遅れ」と「大きな飛躍」の2つのシナリオを基にしながら、また、経済活動のスケールを表すGDPに代わって健康や生活満足度を表すウェルビーイング指数と政治的な安定度を表す社会的緊張指数という2つの新たな指標を導入して、2050年以降の世界の姿を予測し、地球を守るためにはもはや待たなしに、今後数十年間に①貧困、②不平等、③女性のエンパワメント、④食料、⑤エネルギーに関して劇的な方向転換の必要性を訴えている。

最近、「人新生」(Anthropocene)という耳慣れない言葉が時々使われるようになったが、この言葉は、2000年にノーベル賞受賞者のパウル・クルツツェンという地質学者によって提唱されたものであるが、地球を研究している地質学者にとっては、この数十年間に地球という惑星に起こったことは、その45億年の地球の歴史の中でも極めて特異な現象であると認識されているという事実を、我々はもっと謙虚に且つ重大なものとして受け止める必要があるのではないか。

ローマクラブのレポートによれば、産業革命が始まったのは1750年頃であるが、1950年頃から工業化社会が加速度的に進展し、地球システムを不安定化させるようになり、人類の生存にとって必要な農耕生産を可能にした穏やかで比較的気候が安定していた時代である「完新世」(Holocene)の境界条件から外に地球を押し出し、地球が未知の領域に入ったとされている。

### 【読者の声2】 童謡爺さんのどうよう語り (第一話) (作詞・作曲家 高橋育郎)

童謡爺さんなんて、あまり聞きつけないよね。

歌というと、どうしても歌のお姉さんとかお兄さんになるね。若さ溢れた元気いっぱいイメージだよ。どっちもNHKだけ。そうそう、そういえば、昭和26年ころ、歌のおばさんというのがあったな。松田トシと安西愛子のお二人が、「こどもの歌」をうたって、おおいに活躍していた。この時、童謡という言葉をやめて「こどもの歌」としたのだ。童謡に改革の風を吹かせたというところか。それはともかく、二人はそのとき、まだ若かったから、おばさんと呼ばれるのは抵抗があったんだ。ところがディレクターにおばさんになるまで続けてもらいたい番組にするからと言われて、まあ納得したというわけだ。そのおばさんが終わったあとは、お姉さんやお兄さんに引き継がれ、いまに及んでいるわけだよ。

わたしは今年（2007）72 歳になった。いつのまにかなってしまったといった方が当たっている気がするよ。いずれにしても 72 歳といえば、爺じと呼んで歳に不足はなからう。いや、不足ないどころか立派な爺じだ。いくら長寿時代になったといってもね。ただ日野原重明先生にいわせれば、まだまだ若いといわれてしまいそうだけど。

でも、いわれる前にわたしも若いつもりだ。それで、実のところ好きな歌をうたって、歌の会などやっているというわけだ。勿論、歳の事などそんなに気にしているわけではない。（そりゃ、少しは気にしていますよ）

さて、これから童謡語りを始めるにあたって、自己紹介から始めるのが妥当だろう。

できるだけ手短かにいきたい。まずは今の状況から。最初は平成 4 年に始めた「心のふるさとを歌う会」で、会場は中央区八丁堀の都勤労福祉会館。平成 8 年 4 月から人形町の日本橋社会教育会館へ移る。ここは人形町にある日本橋小学校と併設になっているんだ。

そして平成 5 年に西新橋で「円塾倶楽部」ができて「童謡・唱歌の会」を始めた。3 年間やった。次ぎは、朝霞市の滝の根保育園で平成 13 年に始めた「めだかの学校・歌の会」。3 番目は、荒川区町屋の「ぬりえ美術館」で平成 14 年に始めた「ぬりえ童謡の会」。そして 4 番目が、JTB カルチャー・サロンの講座「愛唱歌をうたおう」ということで、四つの会がでそろったわけだ。かっこよく言わせて貰えば、みんな大事な宝物というところかな。本当に。

わたしが童謡に取りつかれたというか、そもそもの結びつきのルーツを探求してみたい。なんて、大袈裟にいつてはいるが、簡単にいえば、生まれつき歌が好きだったということに過ぎない。物心ついた 3 歳のとき、隣のおばさんが歌好きで、子供がいなかったせいもあったろうか、めっぼうわたしをかわいがってくれた。よく外出するおばさんだったが、家にいるときはわたしを呼んでくれて、童謡を教えてくれたり、絵本を読んでくれた。憶えた歌を羅列してみると「雀の学校」「アメフリ」「ハイタイサン」「靴が鳴る」だった。だからこの歌を歌うと、そのあたりの情景が、ほんわかと思い出されてしまうのだ。（小学校の音楽の先生だったと後で知った）思い出の中で、歌の記憶は特に強いものがあるね。メロディーというのは歌詞以上に憶えているものだ。何故だろうか。最近では脳の研究が一段とすすんできているから、この辺の仕組みは解明されると思うのだが。

それから、わが家は、また引越しをした。4 歳のとき、すでに 3 度目になった。この 3 度目も京浜東北線の赤羽駅近くだったのだ。ここでは国民学校（小学校）の 3 年生までいたから、爺の第一のふるさととっていいだろう。懐かしい思い出が充満している。ここでは、母から童謡を教えられた。憶えた歌を羅列してみると「雨降りお月」「赤い靴」「青い目の人形」「夕焼け小焼け」「お山の大将」「シャボン玉」「どんぐりころころ」「黄金虫」「からくり」「でんでん虫」「証城寺の狸ばやし」「桃太郎」「金太郎」だった。そして「一寸法師」は父からだった。まさにわたしの心のふるさとの歌といえるね。 (つづく)

- \* 安西愛子 平成 7 年に安西愛子主宰の「良歌保存会」の会員になる。新宿安田生命ホール 駒場エミナースに出演した。8 年、先生が病気になられ、会は解散した。2018 年に百歳で亡くなられた。
- \* 日野原重明 平成 29 年 7 月 105 歳にて死去。（聖路加国際病院院長・童謡歌手で元 NHK 歌のおね

えさん稲村なおこの後援会会長)

- \* 都心では人口減少がみられるようになってきた。小学校に空きが出てきた。そこを区の教育委員会が活用して人形町に日本橋社会教育会館を造り、生涯学習の場に充てた。平成4年に爺は「心のふるさとを歌う会」を始めた。人形町に移ったのは8年5月から。それから10数年して高層マンションが増えてきて、人口は再び増加し学校の教室は満杯状態になってきた。そこで会場は平成29年に地下室の空き部屋へ移った。ここ日本橋小学校は、元西郷隆盛の屋敷跡である。
- \* 2011年に読売カルチャー教室から講師の依頼があったが、現行以上に増やせないところから、童謡協会の方に代わってもらった。
- \* 2018年は、童謡が誕生して100年に当る。

## 6. Blog 仕組みの群像：梅雨の合間に観る山陰のまちづくり・まち興し

台風2号の影響がなくなった直後の2023年6月4日(日)～6月6日(火)、二泊三日のツアー(飛行機、バス)で山陰を旅した。コロナ禍になって以降の初めての旅である。ツアーの組み方、利用客の構成、そして散策したまちの歴史・文化等そこに有るものを活かし、無いなら創る、創るなら徹底して造るという「まちづくり・まちおこし」の気付きをブログにアップした。

Blog 仕組みの群像：梅雨の合間に観る山陰のまちづくり・まち興し

<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>

## 7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月のpickup情報

<https://japa-fellowlink.wixsite.com/website-2>

- ▼新型コロナウイルス感染症対策に係る財政面での課題 ～予算措置に関する側面を中心に～  
経済のプリズム / 1882-062X 2023-6-6 参議院事務局 企画調整室(調査情報担当室)  
[https://www.sangi.in.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai\\_prism/backnumber/r05pdf/202322401.pdf](https://www.sangi.in.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/r05pdf/202322401.pdf)
- ▼”コロナバブル”が終了。莫大な富を築いたワクチンメーカーの現在地 2023年06月09日  
週プレNEWS <https://wpb.shueisha.co.jp/news/society/2023/06/09/119668/>
- ▼家計簿データから読み解く、コロナ禍以降の消費スタイル変化 2023.06.16 博報堂生活総合研究所 <https://seikatsusoken.jp/diginography/20380/>

## 8. 連携団体及びJapaからのご案内

▼連携団体「日本PFI・PPP協会」主催のセミナー及びスクールのご案内

- ① 2023年7月5日(水) PPP/PFI アクションプラン(令和5年改定版)解説セミナー(ハイブリッド形式) ※オンライン参加のみ受付中

【詳細及びお申込みページ】

<https://www.pfikyokai.or.jp/outline/ol-seminar/seminar/230705/index.html>

- ② 2023年7月7日(金) Park-PFI セミナー (オンライン)  
【詳細及びお申込みページ】  
<https://www.pfikyokai.or.jp/outline/ol-seminar/seminar/230707/index.html>
- ③ 2023年7月28日(金) 開講(全6回) コンセッション/PFI 資金調達実務スクール (オンライン)  
【詳細及びお申込みページ】  
<https://www.pfikyokai.or.jp/outline/ol-seminar/school/concession2023/index.html>

#### ▼Japaの会員募集

Japaは、会員〔正会員、一般会員〕、連携団体を随時募集しています。

※ 正会員：入会金1万円、年会費1万円 一般会員：年会費3千円

お問い合わせ先：Japa事務局 [info@japa.fellowlink.co.jp](mailto:info@japa.fellowlink.co.jp)

#### 9. つぶやき(編集後記に代えて)

先日、筑波山(女体山)に登ってきた。高尾山のようにあまり観光地化もしていなく、それなりに山道はきつく、山登りをしている気分になる。4歳、6歳の孫も一緒に上ったが、一度も抱っこすることなく、休憩時のお菓子を励みに登っていた。さすがに、下山はロープウェイで下りたが。それでも、上りもロープウェイで登ってくる一団に比べると、たいしたものだと関心。こどもの成長はすごい。心身の成長とともに、「個」としての自立・自律を見守りたいが、・・・

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

問合せ・連絡先：[info@japa.fellowlink.co.jp](mailto:info@japa.fellowlink.co.jp)

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

Copyright © 2023 Japa 日本専門家活動協会